

連合2023年闘争開始宣言

中央決起集会を開催



2月6日(月)、都内において開催され、JR連合と共に貨物鉄産労関東地区本部が参加しました。

本集会は、闘争開始宣言集会としては3年ぶりに組合参加者が会場に集う形での開催となり、オンラインライブ配信も行い、合計1,416名(会場659名、オンライン757名)が結集し、「くらしをまもり、未来をつくる。」を合言葉に、2023闘争に取り組む決意を固めました。

主催者代表として挨拶に立った芳野中央闘争委員長は、「賃上げを中心とする『人への投資』によって生産性と実質賃金を持続的に改善し、そのことで働く者や企業にはびこるデフレマインドを断ち切り、賃金も物価も、そしてGDPも安定的に上昇する経済へとステージを変えていく」「すべての組合が要求を掲げ、粘り強い交渉を積み重ねる以外、この闘いに勝利は訪れない。すべての組合が、すべての経営者に一人ひとりの働く者の思いに真摯に向きあうことを求めている」と呼びかけました。

労働条件・中小労働委員会神保委員長の挨拶では「2023春季生活闘争方針では、28年ぶりの水準となる5%程度の賃上げ目標を提起したがこれは決して物価高に対応するためだけに数字をあげたという単純な話ではない。国際的に見劣りする日本の賃金水準を変える必要性や、労働者への分配増や格差是正を前進させることの重要性などを総合的に勘案してあげた」と述べられ、続いて、2023春季生活闘争要求書提出を目前にひかえたU AゼンセンココカラファインユニオンとJAM東京航空計器労働組合2単組の代表者より、闘争にかける思いを述べられました。

集会では「つなげる2023闘争の輪～地方連合会との中継」を、連合北海道と連合長崎から連合ラッピングカーを柱とした街頭宣伝行動を報告、久田中央闘争委員が闘争開始宣言(案)を提起し、満場の拍手で採択、清水中央闘争事務局長の発声による「がんばろう三唱」で、全力で闘争に取り組む決意を共有し、集会を締めくくりました。